

日本臨床検査医学会 平成 24 年度 第 2 回理事会 議事録

日 時：平成 24 年 3 月 31 日（土）12：00～15：20

場 所：学会会館 2F 202 号室 東京都千代田区神田錦町 3-28（〒101-8459）

出 席：村田 満理事長、安東由喜雄副理事長、矢富 裕総務理事、前川真人会計理事、
米山彰子、村上正巳、ゞ谷直人、佐守友博、尾崎由基男、藤田清貴、横田浩充、
渡邊直樹、賀来満夫、和田隆志、康東天 理事
一山 智、高木 康 監事（17 名）

陪 席：本田孝行先生（3/31 定時社員総会承認後 理事）、蛤谷国男会計顧問

欠 席：宮地勇人、北島 勲、田窪孝行 理事（3 名）

野島孝之先生、杉浦哲朗先生（3/31 定時社員総会承認後 理事）

会に先立ち、村田満理事長から挨拶があり、名誉会員で元大分大学の糸賀敬先生(3月1日逝去 享年 84 歳)の逝去を悼み黙祷が捧げられた。

その後、村上正巳理事、賀来満夫理事を議事録署名人に定め、本田孝行先生、和田隆志先生、康東天先生は、初めての理事会への出席のためご挨拶いただき、理事会の議事を進めた。

I 報告事項

1. 支部報告

各支部の終了した例会・総会・地方会、そして例会・総会・地方会の予定、支部役員の交代、支部での検査関係の教授、部長、技師長の退任・新任等について報告された。

2. 委員会報告

1) 学術推進化委員会（藤田清貴 担当理事）

平成21・22年度 学術推進プロジェクト研究採択課題の最終報告として、終了報告書及び会計報告書（領収証を含む）の提出、臨床病理誌への原著論文あるいは総説論文の投稿を依頼したこと、平成24-25年度学術推進化プロジェクト研究課題募集日程の予定、募集内容について委員でメール会議での検討を行っていることが報告された。なお、委員会で、中間報告と最終報告について、報告内容に大差がないため最終報告だけでも良いのではないかという意見が多いため理事に意見が求められ、報告内容に差がなく聴講する会員も関係者のみの場合が多く、最終報告のみで十分でないかと同調する意見であり、これも含め委員会で検討後に理事会に提案することが依頼された。

2) 編集委員会（村上正巳 委員長 宮地勇人 担当理事欠席のため）

優秀論文賞の審査を行い3候補を学会賞委員会に推薦したこと、総説論文の依頼を行ったこと、トピックスとして呼吸器疾患編、血液疾患編をまとめたこと、投稿論文への関与を明確にするため投稿添付用紙の変更を検討すること、MEDLINEにおける論文の区分を明確にするため抄録に区分を明記するよう変更を行うこと、臨床病理誌の英文電子版の発行について検討を行うことが報告された。

3) 教育委員会（矢富 裕 総務理事 北島 勲 担当理事欠席のため）

卒後専門医研修内容（ガイドライン）の見直しと充実を図ることを主たる活動とし、卒前教育についての標準化についても取り組みを始めること、専門医研修における指導医の定義づけと認定条件のドラフトを作成中であることが報告された。

4) 臨床検査点数委員会（米山彰子 担当理事）

2/18の第1回理事会で審議された、イオン交換クロマトグラフィによるリポ蛋白分析測定 of 保険収載についての要望書を日本臨床検査医学会から厚労省に提出する件について、過半数の承認が得られたが、委員から多くの意見が寄せられたため、脂質分野の複数の専門家にご意見をいただいた。現在の要望書の内容は既存法の評価、既存法と比較した当該法の評価の表現に適切でない部分があり、費用の比較の計算にも疑義があるということで、提案者に修正をお願いした。修正要望書を委員会で再度検討した結果、適切な修正がなされていないとする意見が複数あったため、この意見を常任理事会に報告し、対応を決定することが報告された。

5) 学会賞委員会（矢富 裕 担当理事）

平成 24 年度学会賞選考日程予定が報告され、まず、臨床病理 4 月号、ホームページに掲載すること、また 4 月初旬に評議員に募集案内を行うことが報告された。

6) 精度管理委員会 (谷直人 担当理事 前川真人 委員長)

2011年度CAPサーベイ報告書が提示され、2011年度CAP国際臨床検査成績評価プログラム(CAPサーベイ)登録参加施設は94施設であったこと、2012年度の参加施設を増やすため、ISO15189取得施設へ参加啓発活動を行い、新規項目として遺伝子項目を導入し、臨床検査室グローバルニュースに広告や記事を掲載し、検査項目毎の参加申込みに変更した結果、104施設となったこと、また、過去5年間の参加数及び参加施設内訳、サーベイ統計処理における課題が報告された。

7) 利益相反委員会 (村上正巳 担当理事)

日本臨床検査医学会としての当ガイドライン(案)を第59回学術集会までに取りまとめることを目指し、本年中に数回委員会を開催し作業を進める予定であること、ガイドライン作成にあたっては日本医学会の「医学研究の利益相反(COI)マネジメントに関するガイドライン」をたたき台とするが当会の特徴は十分配慮して作成すること、関連団体の日本臨床検査薬協会や日本衛生検査所協会の活動について調査して必要に応じ反映させることが報告された。

そして、村田理事長より提示された緊急課題の「利益相反自己申告書」提出については下記の通り検討したことが報告された。

- ①義務づけられる者：本学会の役員(理事長、理事、監事)、各委員会(原則として全委員会)の委員長および委員、学会事務職員とする。
- ②開示内容：基本的には日本医学会の「医学研究の利益相反(COI)マネジメントに関するガイドライン」に準じる。
- ③提出のインターバル：役員および委員は新年度開始時に年1回の提出を求める。なお年度途中で新たなCOI状態が生じた場合は一定期間内(一ヶ月以内など)に報告する。
- ④提出書類の形式と保管方法：当面は紙媒体での提出とし、申告書の保管は当会事務所で個人情報の保護に十分配慮して行う。
- ⑤その他：学術集会での発表者は発表する研究内容に関連する企業・法人とのCOI状態について、学会誌の著者は著者全員に自己申告書の提出および開示を義務付ける。

8) ガイドライン作成委員会 (前川真人 委員 北島勲 担当理事欠席のため)

臨床検査のガイドラインJSLM2012作成のため、前ガイドラインの内容(章立て・項目立て)を見直し再検討を行い、各項目は4ページ(見開きで2ページ)を原則とし、短い場合は2ページ、長くても6ページとすること、酵素単位は、U/Lで統一すること、最終的な内容は学会誌編集委員の専門医の査読を受け、適宜、査読意見は分野担当者を経由して執筆者に通知し修正を行ってもらうこと、章立て・項目立てに関する変更としては、第4章「検査の評価法」の特定健診、インフォームドコンセントは削除し、その他の大部分は第1章「検査値アプローチ」に移動する等の構成に変更を加えること、また、ガイドライン発刊に向けたタイムスケジュール3月～11月が報告された。

9) 専門医・管理医委員会 (矢富 裕 総務理事 北島勲 担当理事欠席のため)

担当理事と委員長が本委員会の活動目標を話し合い「専門医、管理医数の増加と認知度を高める具体的方策を検討する」とし、具体案について委員会でメール会議を行うことが報告された。

10) 医療安全委員会 (谷直人 担当理事)

第59回学術集会(京都)での医療安全のシンポジウムのテーマ、講演内容について下記の通り報告された。

テーマ：臨床検査における患者誤認対策(仮)

- 1) 採血業務および検体管理における患者誤認対策(仮)、大峠和彦先生(天理よろず相談所病院)
- 2) 患者認証システムを用いた患者誤認対策(仮) 福田高久先生(日本医大病院)
- 3) 特別講演：患者誤認を回避する医療安全対策(仮題) 中島和江先生(大阪大学病院)

11) 会則改定委員会 (米山彰子 担当理事 谷直人 委員長)

2月の理事会での意見ならびに3月31日までに理事から届いた意見等について、4月～5月に第1回委員会を開催し検討を行うことが報告された。

12) 検査項目コード委員会 (佐守友博 担当理事、康 東天 委員長)

3月14日に第1回委員会を開催し、これからの活動方針として、1) PMDAのセンチネルプロジェクトにおける臨床検査のJLAC10コーディングに助言等コミットすること、2) JLAC10改訂WGを発足させること、3) JLAC10の改訂、維持、運用に関して、医療情報学会等の諸団体と連携すること、3) 標準検査法名称の一部修正をJCCLS

と共同で行うことが報告された。

13) 標準化委員会 (前川真人 担当理事)

関連の作業として、医学書院雑誌「臨床検査」で「標準化の国際動向、日本の動き」と題した連載が企画され、「JSLMの動向」の原稿を脱稿したことが報告された。

3. 第58回学術集会報告 (矢富 裕 総務理事 小出典男会長には出席頂かないため)

2011年11月17日～20日(木～日)に岡山コンベンションセンターで、小出典男会長のもと開催され、会長シンポジウム、特別講演2題、教育講演4題、シンポジウム13題、Reverced CPC・CPC教育セミナー2題、一般演題486題(すべて口頭発表)ランチョンセミナー14題、イブニングセミナー2題、最新技術検査セミナー4題、有料参加者数は1430名であったことが報告され、全国の会員、評議員、理事への多大な支援と協力への感謝が伝えられた。

4. 第59回学術集会報告 (一山 智 会長)

2012年11月29日～12月2日(木～日)に、国立京都国際会館で、一山智会長のもと、テーマ「臨床検査の再生」として開催予定であり、現在の学術企画案(教育講演、シンポジウム、ワークショップ等)が示された。1日目～4日目のプログラム案一覧が常置委員会、併設の会議、学会を含めて示された。また、臨床検査薬協会主催の展示がイベントホールで行われる予定であることが報告された。

なお、本理事会終了後に学術集会委員会でも検討することが報告された。

5. 第60回学術集会報告 (賀来満夫 東北支部長 荏原順一会長には出席頂かないため)

2013年10月31日～11月3日(木～日)に、神戸国際会議場で、荏原順一会長のもと、テーマ「最新知見から臨床検査へ」として開催予定であることが報告された。

6. 第12回アジア臨床病理・臨床検査医学会報告 (矢富 裕 総務理事 高橋伯夫会長には出席頂かないため)

2012年11月29日～12月1日(木～土)に、国立京都国際会館で、高橋伯夫会長のもと開催予定であり、主なプログラムの概略、登録料、トラベルアワード、当会の国際学会発表者に対する当会の奨励金の申請ができる国際学会であること、ASCPaLMの役員、加盟国の学会等が報告された。

7. 平成25年度からの名誉会員、功勞会員、新評議員の推薦について (村田 満 理事長)

名誉会員、功勞会員、評議員の資格要件の細則、各支部の名誉会員、功勞会員該当者が示され、名誉会員、功勞会員については、ご本人に承諾を頂いたうえで9月30日までに各支部から推薦するよう依頼がなされた。

また、評議員については、支部正会員の10%の評議員候補者定員数が示され、都道府県別、所属機関別に偏らないように検討のうえ、9月30日までに推薦するよう依頼がなされた。

8. 第62回(2015年)学術集會長の推薦について (村田 満 理事長)

第62回(2015年)学術集會長について、支部の順番とするか(その場合は東海北陸か関東甲信越支部)、一律に推薦いただくか、支部の評議員数に違いがあるため多い支部は回数が多くても良いのではないかという意見も過去にはあったこと等の選択肢が挙げられ、どのような推薦とするか討議された。地域活性ということで支部の持ち回りのような形がよいのではないか、一律に推薦いただくのがよいのではないか、支部ではなく評議員から立候補いただくという意見などがあり、検討の結果、9月30日までに、支部を限定しないで一律に、候補者の所信表明を添えて、推薦していただくこととなった。

9. 認定試験日程等について (村田満 理事長)

1) 第29回臨床検査専門医認定試験実施要領(平成24年度)

2012年8月4日～5日(土～日)、兵庫医科大学で実施すること、試験要領は、臨床病理2月号、ホームページに公開していることが報告された。

ただし、臨床病理2月号に掲載された試験要領の受験資格で、昨年規定改定された箇所に誤りがあるため、医師の会員にメールでお知らせをし、3月号に訂正文を同封して、4月号には正しい要領を掲載する予定であることが報告された。

2) 第4回臨床検査管理医講習・認定試験について

2012年9月16日(日)、東京大学医学部で実施すること、試験要領は5月にホームページに掲載して、臨床病理4月号に掲載する予定であり、講師として、臨床検査医学総論：山田俊幸先生(自治医大)、精度管理：三宅一徳

先生（順天堂大）、登録衛生検査所関連：山口宏茂先生（兵庫県登録衛生検査センター）をお願いすることが報告された。

10. 支部総会、例会、地方会での依頼（矢富 裕 総務理事）

支部総会、例会、地方会のプログラムを臨床病理誌、ホームページに掲載するため、また、支部会員に開催することをメール配信するために、プログラムが決定したら事務局に送付いただくこと、その開催の際には、会員証（QRコードをリーダーで読み込む）により参加登録をし、参加を学会の会員データに登録するため、データを事務局に送付していただくことが依頼された。

なお、本件は、別途、事務局から各支部にメールでお知らせする予定である。

11. HbA1c 適正運営機構（仮称）について（矢富 裕 総務理事、村上正巳 理事）

日本糖尿病学会から、HbA1c 適正運営機構（仮称）を当会に検査側のとりまとめの依頼があり、この委員長の人選については常任理事会に一任されたため、村上正巳先生に委員長就任を依頼し、承諾いただいたことが報告された。

12. 日本医学会評議員会報告（村田 満 理事長）

日本医学会の平成 24～26 年度の役員選挙結果、新規加盟 2 学会、日本医学会が法人化するにあたり各分科会への会費負担については、一律の分担金と会員数に応じた額を合わせたもので決定されたことが報告された。

13. 事務局職員の新規募集について（状況報告）（村田 満 理事長）

現在、ハローワークに事業所及び地図、求人登録を行っており、4 月初旬から募集予定であることが報告された。なお、関東甲信越支部では、当会事務局に支部の仕事を依頼することを計画しており、支部幹事会で協議するため、2 割の人件費の負担額についての質問があり、時給千円で週 20 時間程度を予定しているので、その 2 割程度と考えてよいのではないかと回答された。

14. その他

1) 支部への依頼（前川真人 会計理事）

支部活動費（一律 20 万円+支部会員数×500 円）送金のため、送金先の口座情報を事務局までお知らせいただく依頼がされた。

Ⅲ 審議事項

1. 平成 23 年度事業報告・会計収支決算報告について（村田満 理事長、前川真人 会計理事）

事業報告書、貸借対照表、損益計算書、監査報告書が提示され、事業報告については村田満理事長から報告、会計収支決算報告については前川真人会計理事から説明があった。

監事より次の質問、指摘があった。

①平成 23 年度決算報告で、一般会計において、学術推進プロジェクト研究助成金が予算立てされていたにもかかわらず執行されなかったことについて質問があり、昨年は募集を行わなかったこと、平成 24・25 年度は募集を行う予定であることが回答された。

②予定通り開催された 60 周年記念式典の費用が予算立てされていなかったことについて、計画性がないとの指摘があった。

③特別会計から支出された東日本大震災対策費用、学術集会への共催展示会分配金の不足の補助金に関して、補正予算が立てられていないことは、理事会、社員総会の決議を経ていないということになってしまい執行部の独走になりかねないと指摘があった。東日本大震災対策費用は、2011 年 3 月の定時社員総会で、学術集会への共催展示会分配金の不足の補助金に関しては 2011 年 11 月の臨時社員総会で、それぞれ承認を得ているはずであるが、補正予算として記載がなかったためであり、今後は、理事会、社員総会の承認を経て補正予算を記載して報告することを徹底するよう合意がなされた。

法人税、消費税についての質問があり、蛸谷國男税理士により回答された。

一山智監事より、監査報告があり承認された。

2. 第 61 回（2014 年）日本臨床検査医学会学術集会長について（村田 満 理事長、安東由喜雄 副理事長）

2014 年に開催される第 61 回学術集会の学術集会長に決定していた安東由喜雄先生から、本年 2 月から現在の病態情報解析学講座教授に加えて神経内科講座教授を併任することになり、学術集会を開催する 2014 年までには病態情報解析学講座を離れ、新たな教授が就任することになったため、第 61 回学術集会会長を辞退したい旨、また、

副理事長についても 2012 年末で退任し、その後は理事として務めたい旨の申し出がなされ、何れも致し方なしとなり承認された。

後任の第 61 回学術集会長について検討され、昨年、立候補していた次点候補者にお尋ねすることとなり、理事会中に 2014 年の学術集会の担当は可能かどうかを伺ったが無理ということであった。安東先生が九州支部からの推薦であったため、支部からの後任候補として康東天先生（九州大）が推薦され、学術集会長をお願いすることとなり承認された。しかし、開催時期に福岡市内の会場はホテル以外空いてはいないとのことであり、早急に会場を探していただくこととなった。

3. 平成 26・27 年度臨床検査専門医試験実行委員長、試験委員会委員について（村田 満 理事長）

第 1 回理事会で、平成 26・27 年度 臨床検査専門医 試験実行委員長を早急に決定して、試験委員会委員として参加いただくべきと指摘があった件について、臨床検査専門医・管理医審議会の持ち回り審議を行い、矢富裕先生（東京大学）が全員一致で承認されたことが報告され、平成 26・27 年度 臨床検査専門医 試験実行委員長、平成 24・25 年度試験委員会委員として承認された。

なお、審議会委員 2 名から、今後のことを考えると試験を担当するスタッフの数を増す必要があり徐々にでも東京と大阪以外の人を入れて、将来は福岡、名古屋、仙台、札幌などでも試験ができる環境を整えて頂ければ幸いであるという意見があったことが紹介された。

4. 平成 24 年度臨床検査管理医試験実行委員長、審議会委員について（村田 満 理事長）

平成 18 年から本認定制度が、平成 22 年から認定試験が開始されたが、過去 2 年間は認定試験実行委員長を決めておらず、平成 24 年からは実行委員長を定めて認定試験を行いたいため、平成 24 年度管理医試験実行委員長として矢富裕先生にご担当いただくこと、また、規定などにはないが、臨床検査専門医・管理医委員会の審議会委員となつていただくことが提案され承認された。

5. 東日本大震災記録集について（谷直人 理事、矢富 裕総務担当、前川真人 会計理事）

前回の理事会でも提案されていた本記録集の作製について、常任理事会で実際の内容を確認し、充実したものであるため冊子として残すべきとなったことが報告された。そのうえで、冊子製作にあたり見積りが提示され 1000 冊作製し、関連機関の他、評議員（社員）へも送付すること、会員は HP からダウンロードして閲覧いただくこと、一応、製作費用の妥当性を確認するため 1 社だけではなく、相見積りを取ることにしたうえで、記録集の作製、送付等について承認された。

6. 評議員再任結果について（平成 24 年 1 月 1 日付）（矢富 裕 総務理事）

2 月 18 日の第 1 回理事会で判断ができなかった 4 名に関して審議された。学術集会参加が 1 度もなく再任条件を満たしていない 1 名、未回答で、支部長から辞退という確認がなされた 3 名は、評議員再任が認められないと決定された。

7. グローバルニュースの電子版について（村田 満 理事長、谷直人 担当理事、前川真人 理事）

現在、CGI で作成したグローバルニュース季刊誌は、臨床病理誌送付の際に 2 冊ずつ同封し送付されているが、それとは別に、会員番号とパスワードで、宇宙堂八木書店のサイトで会員に閲覧可能とすることが提案されたが、1 営利企業の活動に関するものであり、利益相反のうえで問題ではないかとなり、次回、理事会で経緯をご存知の宮地勇人理事が出席された際に再検討することとなり、電子版の掲載はそれまで保留として、現在のままグローバルニュースを会誌に同封するのみとなった。

8. 平成 24 年度名簿発刊について（矢富 裕 総務理事）

当学会の現在の名簿は、臨床病理 2 月号に掲載される内容に、会員名簿（氏名と勤務先）が掲載されているのみでありあまり利用価値がないと思われるため、会員に掲載の項目に関する意向をメールで問い合わせをしたうえで、会員名簿に氏名、勤務先か自宅、TEL、FAX、メールアドレスを入れることが提案され、承認された。なお、メールで連絡が取れない会員には郵送等を行う。

9. 日本臨床検査医専門医会からの要望について（村田 満 理事長、佐守友博 理事、専門医会会長）

臨床検査振興協議会への理事の推薦については、現在、日本臨床検査医学会は 4 名、日本臨床検査専門医会は 1 名を推薦しているが、会費の負担分、臨床検査専門医会から渡辺清明先生を推薦しており、執行部からの推薦ができずもう 1 名の枠が必要であるため、臨床検査医学会 3 名、臨床検査専門医会 2 名の推薦数に変更する要望がなされ、承認された。なお、当会から推薦されている安東由喜雄先生が辞退されることとなった。

10. 職員就業規則について（村田 満 理事長）

厚生労働省東京労働局の雛形から作成し、平成 20 年度第 1 回理事会で報告され、再度見直した就業規則が提示され承認された。また、就業規則にも定めのある退職金制度により、現在の職員の退職金積立を事務職員として正式に採用された平成 13 年に遡り積立を行いたい旨報告され承認された。

11. その他

チーム医療 WG の委員長について（米山彰子 担当理事）

米山彰子理事より、チーム医療 WG の委員長として、諏訪部章先生（岩手医大）に依頼して了承を得たことが報告され、承認された。

懇談事項（共催展示について、ホームページの充実について）（村田 満 理事長）

共催展示会について、本年は、京都の学術集会で日本臨床検査薬協会主催の展示が、また、臨床検査自動化振興会主催の展示が別途行われる予定であり、共催展示会での分配金にあたる 1200 万円について不足のある場合には、学会の特別会計から補填することが確認された。来年以降の展示のあり方について協議され、分配金の補助を何年も続けていくことは財政上できないこと、参加者数から考えても以前の臨床検査自動化学会での展示に戻していくことがよいのではないか、当学会として一致した意向を持って活動すべき等の意見が出され、継続して懇談していくこととなった。

なお、ホームページの充実については、次回に回された。

平成 24 年度理事会日程（矢富 裕 総務理事）

第 3 回、第 4 回の理事会の予定が下記の通り報告された。

第 3 回：8 月 26 日(日) 正午～、第 4 回：10 月 27 日(土) 正午～

V 閉会の挨拶（安東由喜雄 副理事長）

安東由喜雄副理事長より閉会の言葉があり本理事会は閉会された。

以上

議事録署名人

村上正巳 

賀来満夫 